



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3176 号 2016.8.9 発行

IQ テストの不都合な真実 多種多様な判断基準、数値の信頼性は「安物の体重計」並み  
 知能テストを受ける少女 Photo: Orlando  
 /Three Lions/Getty Images  
 By JO CRAVEN MCGINTY



ウォール・ストリート・ジャーナル日本版 2016 年 8 月 9 日

頭の出来を測定してそれを数値化するのは、意外と難しい。

知能を測る方法として今は IQ (知能指数) テストが広く使われているものの、実際はそのテストにもさまざまな種類がある。質問事項は多様で、同じ人が受けてもいろいろな要因で結果に違いが生じることがある。数値が大きく変動すること

とは少ないが、研究によれば同一人物でも 10 ポイントほどの幅が生じるケースもあるという。

IQ テストが「あまりちゃんとしたものではないということは、私たちが分かっている」と話すのは、イリノイ州立大学の心理学者 W・ジョエル・シュナイダー氏だ。アセシング・サイキというサイトで知能に関する様々なブログ記事を書いている同氏は、現代の IQ テストは「風呂場に置いてある安物の体重計」みたいなもので、使うたびに毎回少し数値が変わると指摘する。「IQ を数字で測ろうというコンセプトがそもそも壮大で、誰もが納得できる方法はない」

IQ テストは、論理的な考え方や特定のパターンを認識する能力、言語力、空間的な方向感覚、さらには短期記憶力などといったいくつかの才能を測った結果をまとめた数値だ。しかしそれを測定するテストは複数の会社がいくつも提供しており、必ずしもそれらが同じ項目を測っているとも限らない。なかにはひとつの分野を他の才能よりも重視するものや、測定する項目を絞った IQ テストも存在する。一定の項目だけに集中して IQ を測った場合、出された数値が実際の IQ よりも高い場合や低い場合があることも多い。

「IQ テストは一種類しかない」と勘違いしている人がたくさんいる。でも実際にはいくつかのタイプがある」とシュナイダー氏は言う。

勉強で学んだことを測定する学力試験とは違い、IQ テストは一般知能を測る目的で行われる。中には 2 項目で IQ を調べる簡易試験もあるが、正確に数値をはじき出そうとする場合は 7 つからその倍の 14 項目程度を調べることもある。ただし具体的にそれをどう測定するかは決まりがあるわけではない。

「こうした状況なので英才教育にかかわっている関係者は頭を抱えてしまう」。こう話すのは、精神測定学を研究し、ウッドコック・ジョンソン知能検査の一部作成を担当したケビン・マグリュウ氏だ。「ある分野で特別な才能を持った子供がいたとしても、IQ テストの

測定項目にその分野が必ず含まれているとは限らない」

### IQテストの語源

現代の知能テストは20世紀初頭にフランスで誕生した。もともとは生徒らが学校の授業についていけるかどうかを判断するためのもので、実年齢と精神的な年齢の違いを測るのに利用されていた。例えば8歳の子供が6歳程度の精神年齢とされる数値が出た場合、その子供は2年遅れていると判断する方法だ。

とはいえ実年齢とは違い、精神的な成熟は進み続けるものではない。そのため心理学者らは別のやり方を求め、数年後には精神年齢を実年齢で割る方法に変更している。導き出された精神年齢を実年齢で割り、その数値に100を掛ける数式だ。知能レベル(intelligence)を求めるために割り算の商(quotient)を使うので、その頭文字をとってIQと呼ばれるようになった。

この方法を使うと、8歳児が6歳児程度の能力を示した場合その子のIQは75となり、14歳の子が12歳程度の能力を示すと、同じ2年の差とはいえ、その子のIQは86となる。この方法は知能を測る上で多少は精度を上げたものの、成人向けの測定方法としてはさらなる調整が必要となった。40歳の人物が38歳の精神年齢であったとしても、その差から大人の知能を測ることに意味がないからだ。

当初の名残としてIQという言葉が使われているものの、現代の知能指数テストは本人と同じ年齢層の他人とを相対的に比較する方法をとっている。一般の平均を100とし、標準偏差は15とする場合が多い(中には違った標準偏差を使うものもある)。そしてテストの結果はある程度の誤差を見込むものとして結論付けられている。つまり、今のIQは推測された数字にすぎないということだ。

### 死刑執行やNFLにもIQテスト

現代のIQテストにおいては、大体3人中2人がIQ85からIQ115の範囲の間に収まる。全体の95%はIQ70からIQ130の枠に入る。残りの5%の人口の半分が知的障害とされる70以下か、130以上の数字を出す構成だ。

IQテストは会社採用試験の際に応募者の適性を判断したり、社会保障の給付金を受け取る資格があるかを判断するために使われることもある。2002年には知的障害者の死刑執行が憲法違反だと連邦最高裁が判断したため、その是非を決めるためにテストを受けさせることもある。さらに米プロフットボールリーグ(NFL)では、もともとは職場適応能力を測るために作られたワンダーリック試験と呼ばれるIQテストを定期的に選手らに受けさせたりもしている。

IQテストの主な利用目的は、学習障害を持つ生徒や英才プログラムを受けさせる生徒をスクリーニングすることだ。

マグリュウ氏によれば最も正確なIQテストで高い点数を取る生徒は、学業テストでも優秀な成績を収める傾向があるという。ただしどんなに詳しいIQテストであっても、学業の面での成績を4割から5割程度の精度でしか予測できないという。

「心理学ではその確率は高いと言える。ただ、要は勉強の出来の5割から6割は知能とは関係ない部分で決まるということだ」とマグリュウ氏は話す。

基本的な知能を持つことの大切さを疑う人はいない。しかしIQテストでは測ることのできない本人のやる気や動機、意志の強さなどが、結果的にその人物が成功を手に入れるかどうかを大きく左右するという。

もちろん、これ自体は何も新しい発見ではない。発明王トーマス・エジソンが言った通り、天才とは1%のひらめきと99%の努力である、ということだ。

「命の尊厳は、本人以外 決定できるものでない」 県内障害者団体が声明、提言

東京新聞 2016年8月9日

相模原市緑区の知的障害者施設の殺傷事件を受けて、重度の身体・知的障害があり、医

療ケアが必要な子どものいる保護者らでつくる「県重症心身障害児（者）を守る会」は八日、「命の尊厳は、本人以外の第三者が決定できるものではない」などとする声明を発表した。



県議会厚生委員会で黙とうする委員ら＝県庁で  
声明では、容疑者が元施設職員だったことから、「若い志ある方の入職にマイナスの影響を及ぼすことがないように願っている」とし、障害者支援に携わる人たちの処遇改善を求めた。

県庁で会見した伊藤光子会長（74）は、「障害者を誹謗（ひぼう）する容疑者

の言動と、それに同調する一部の風潮に憤りを感じる。障害者は何も役に立たないなどということはない。命の大切さを世の中に示している」と訴えた。

中村紀夫副会長（75）は、「容疑者が重度の障害者を狙ったと報じられ、私たちも大変な危機感を持って事件を受けとめている」と話し、「落ち着いたら、やまゆり園の職員や入所者の家族会と接触し、寄り添いたい」と、会として支援する考えを明かした。

一方、知的障害者の権利擁護などに取り組む「県手をつなぐ育成会」（依田雍子会長）は殺傷事件を受けて、黒岩祐治知事と桐谷次郎教育長あてに、入所施設の職員体制の見直しなどを求める提言書を同日、提出した。

同園では、夜間に利用者二十人に一人の夜勤職員を配置していたが、提言では「災害時対応などを考えても極めて不適切。早急に基準の見直しを含めた対応を求める」とした。

また共生社会に向けた教育のあり方について、特別支援教育や障害理解教育といった従来の枠組みでなく「多方面の連携によって社会全体で人間の育ちをとらえ、支える体制も必要」として、分野を横断した検討会を設けるよう要望した。（志村彰太、原昌志）

### 【相模原19人刺殺】匿名発表で県警に申し入れ 相模原殺傷、記者クラブ

産経新聞 2016年8月8日

相模原市緑区の障害者施設「津久井やまゆり園」で入居者19人が刺殺された事件で、報道各社で構成する神奈川県警記者クラブは8日、被害者を匿名で発表した県警津久井署捜査本部に対し「発表は実名が原則で、報道機関の責任で実名か匿名か判断する」との立場を再認識し、前例としないよう申し入れた。

捜査本部は「報道各社の原則について理解している。今後の広報で、今回匿名で発表したという事実にならうことはない」と回答した。

捜査本部は事件が発生した7月26日、犠牲者19人は性別と年齢、負傷者は性別だけを公表した。理由は「知的障害者支援施設であり、遺族のプライバシー保護の必要性が極めて高いと判断した。遺族からも報道対応に特段の配慮をしてほしいと強い要望があった」と説明していた。



### 県手をつなぐ育成会中津大会

大分合同新聞 2016年8月8日

県内から710人が参加

第43回県手をつなぐ育成会中津大会（大分合同新聞社後援）が7日、中津市の中津文化会館であり、県内から知的障害者とその保護者、福祉関係者ら約710人が参加した。

本人活動セミナーに続いて式典があり、斉藤国

芳理事長があいさつ。

会の発展に功績のあった会員ら6個人と1団体を表彰し、大会宣言を採択した。

相模原市の知的障害者施設での殺傷事件を受け、式典に先立って犠牲者に黙とうをささげた。斉藤理事長はあいさつの中で「この上なく悲しく、決して許されることではない。わが子が地域で当たり前のように生活を送れるよう、長年かけて築いてきた共生社会への取り組みが一瞬で壊されたといっても過言ではない。全ての人が共生できる地域社会の構築に一層取り組んでいく」と決意を述べた。

被表彰者は次の通り。

▽特別表彰 浜口誠一（宇佐市）▽表彰状 大森三千代（宇佐市）白石英子（大分市）堀田ハル子、矢野博子（中津市）▽本人表彰 馬場さより（中津市）▽感謝状 マリアスポーツクラブ（中津市）

### 施設の防犯手引策定へ 静岡県と県警、福祉団体

静岡新聞 2016年8月9日

福祉施設への不審者侵入の対応などについて意見を交わす出席者＝8日午後、静岡市葵区



相模原市の知的障害者施設で起きた殺傷事件を受け、静岡県と県警、静岡県内の社会福祉施設の団体が8日、第1回防犯対策会議を静岡市葵区で開いた。約50人が出席し、福祉施設への不審者侵入などの対応について意見を交わした。県は会議の議論などを基に、年内をめどに対策マニュアルの策定を進める方針。

社会福祉施設側は児童養護施設や乳児院、身体障害者施設など各協会の会長らが出席した。県の山口重則健康福祉部長は「現場の意見を聞き、防犯対策マニュアルを作成したい」と説明した。

施設関係者は巡回や防犯カメラなどこれまでの夜間の防犯対策を報告した。警備会社との契約やオートロックの設置、不審者対応訓練の実施など事件後に新たに検討している対策も伝えた。

県警の担当者は「逃げるできない人がいる施設では、職員が入所者の命を守らないといけない」と危機意識の共有を呼び掛けた。不審者対応のポイントとして「どのように侵入を防ぐか」「迅速に通報し第三者の助けを求められるか」の2点を挙げた。

### 障害者の視点で生活を見直す 差別解消法説明

佐賀新聞 2016年08月09日

障害者の立場から共生社会や障害者差別解消法について語る古庄和秀大牟田市議会議員（右）＝神崎市中央公民館



第58回障害児（者）教育・福祉・就労研修佐賀県大会（佐賀県手をつなぐ育成会など主催）が7月31日、神崎市中央公民館などで開かれた。古庄和秀大牟田市議会議員が、障害のある当事者としての立場から、4月に施行された「障害者差別解消法」の基本理念などについて講演した。分科会では、成年後見制度の運用や教育・就労現場での課題などを検討した。

古庄氏は障害者差別解消法により、会議に参加した場合に資料を読みやすくルビを打つなどの配慮を求めることができると紹介。「生活しにくいことを伝えることと、“わがまま”を言うことは違う。障害者側も権利の主張だけにならないよう、伝え方を練習する必要がある」と強調した。その上で、『『なぜできないのか』ではなく、『どんな工夫をしたらできるようになるのか』を考える社会モデルの視点が必要だ』と訴えた。

## のびのびアートで心ケア 崇城大生ら企画



熊本日日新聞 2016年08月08日  
大胆な筆遣いで白い布に色を塗っていく子どもたち  
= 7日、大津町

絵を描いて熊本地震によるストレスを軽減するという「心をケアするアートプロジェクト」が7日、大津町大津の森林「オズの森」であった。崇城大芸術学部が主催し、東京芸大、東京学芸大の学生らと企画を考案。色とりどりの絵を描いた子どもたちが、自由な表現活動を満喫した。

2～6歳児と保護者の計約30人が参加。崇城大の学生ら15人と一緒に縦1.2メー

トル、横15メートルの白い布2枚に、筆や手を使いアクリル絵の具で色を付けた。

明るい紫色の線を描いた熊本市中央区の前田昇一郎君（6）は「いろんな色を使って楽しい。太陽に当たるときれいに見える」と満足した様子。崇城大大学院美術学科修士課程2年の木下裕介さん（23）は「表現することでストレスを気兼ねなく発散してほしい」と話していた。

障害者や認知症患者らのアートプログラムを手掛ける東京都の会社「プログラムアートARTMAN」などが協力。御船町の老人福祉施設でも6日、布の染色に取り組んだ。（富田ともみ）

## 熊本地震 人材生かす仕組み必要 専門家来るも指揮者不在 福祉支援に参加、大船渡・今野千賀子さん / 岩手

毎日新聞 2016年8月9日

4月の熊本地震で、大船渡市の医療法人「勝久会」の看護部長、今野千賀子さん（57）は4～6月の間に2回、災害派遣医療チーム「DMAT」の福祉版「DCAT」の一員として、熊本県南阿蘇村で活動した。「介護福祉士など福祉関係者をどの現場に配置するかなど、専門知識を持った調整役の育成が急務だ」と振り返る。【二村祐士朗】

### ■一定の成果

勝久会は、介護福祉士や看護師といった専門職3～4人のチームを1週間程度、南阿蘇村に派遣。4～6月の間、延べ16チームが要介護の高齢者らを支援してきた。今野さんは2回現地に行き、村内の福祉施設の職員らと連携して活動した。

今野さんらが支援した福祉施設は、要介護3以上の認知症患者らが入居するグループホームや、要支援の高齢者が暮らす有料老人ホームを併設。震災後は、介護の必要な高齢者や障害者らを受け入れる福祉避難所にもなった。55人の定員に対し、20人程度の超過状態が続いていた。

DCATの活動で、今野さんは一定の成果を感じている。「認知症の高齢者の介護に精通した職員を派遣できたことで、現場スタッフの負担を幾分か和らげることができた」

### ■「もう疲れた」

支援した福祉施設には、勝久会の看護師らのほかに、専門知識を持ったボランティアも個人的に支援しようと多数訪れた。「専門知識を持った人材が集まっても、それをどう生かすかの指揮者が不在だった」。今野さんは課題を痛感した。

今野さんが6月に派遣された時だった。施設の職員が「またボランティアの人が来るのか。もう疲れた」とこぼすのを耳にした。

勝久会は、現地に職員1人を1カ月間常駐させ、1週間ごとに入れ替わる各チームが円滑に活動できるよう、業務の引き継ぎ役などを担当してもらった。一方、ボランティアは

早い人だと1日で帰ってしまい、支援状況などの引き継ぎが不十分だった。

「支援を受ける側の職員も、日替わりで来るボランティアにその都度、仕事の内容を教えなければならず、疲れ果てていた」。今野さんは施設の職員をおもんばかった。

#### ■「力出せず」

「私の50%しか力を出せていない」「何のために来たのか分からない」。ボランティアからも不満の声が漏れた。支援しようと訪れたものの、施設に関する情報がボランティア間で共有されていなかったためだ。

施設の入所者や避難した高齢者らには、どんな支援が必要なのかなどそれぞれに応じた個別の対応が必要になってくる。今野さんは「DCATのメンバーやボランティアに、きめ細かい情報を提供できる調整役の専門スタッフを現地に置かなければ、支援が現地の職員の負担になりかねず悪循環だ」と指摘する。

しかし、こうしたスタッフを派遣する仕組みはない。「行政は、調整役の派遣を現場頼みにせず、いざという時に活動できるよう日ごろから養成し、被災地で活動できるような仕組みを作るべきだ」

■ことば DCAT Disaster Care Assistance Team (災害派遣福祉チーム)の略。東日本大震災で、高齢者を中心に長引く避難生活のストレスなどが原因で震災関連死が相次いだことを受けて、各地で整備が進んでいる。国が主導するDMATと違い、法的位置づけがないため、派遣職員の宿泊費や介護職員の緊急招集をどうするかなどが課題となる。

## 離れて暮らすお年寄りと家族を結ぶ「遠隔訪問ロボット」開発 島根県のプロジェクトチーム実証実験スタート

産経新聞 2016年8月9日

### デモンストレーションが披露された遠隔訪問ロボット



離れて暮らすお年寄りと家族をインターネットで結び、コミュニケーションを可能にする「遠隔訪問ロボット」を、島根県産業技術センターなどのプロジェクトチームが開発し、県内の介護施設の協力を得て実証実験を始めた。高齢者の所へ家族が訪れたような印象を重視したといい、遠隔での介護や診療なども視野に入れ、1～2年後の実用化を目指して実験を進める。

### 認知症の予防・治療目的のゲームソフトも

開発したのは、同センターの主導で平成26年に発足した「通信ネットワークを利用したメカトロシステム技術研究会」の、遠隔訪問ロボットプロジェクトチーム。県内5社で構成し、名城大理工学部の辰野恭市教授が開発を進めているシステムを利用するなどして、ロボットを試作した。

ロボットは、高さ1・3メートル、重さ15キロで自律走行が可能。顔に当たる部分に配置されたディスプレイに向かい、遠隔地の家族らとテレビ電話のように画面をみながらリアルタイムの会話ができる。認知症の予防・治療を目的としたゲームソフトも組み込まれ、タッチパネルで利用できる。

このプロジェクトに、県社会福祉事業団が協力。同事業団の特別養護老人ホームにロボットを導入し、施設利用者と東京に住む家族の間で使ってもらおう。実験の期間中、生じる課題や改善点などを洗い出し、システムの向上を図る。

辰野教授は「自律走行できるロボットのため、施設利用者に『家族が訪ねて来てくれた』というイメージを抱ける点がポイント」と強調。同センターの吉野勝美所長は「試作したロボットの実用化にめどをつけ、県内の関連産業の発展に結びつけたい」と期待する。

## 知的障害者の力作並ぶ 横浜で「等身大画展」

神奈川新聞 2016年08月08日

(写真・神奈川新聞社)



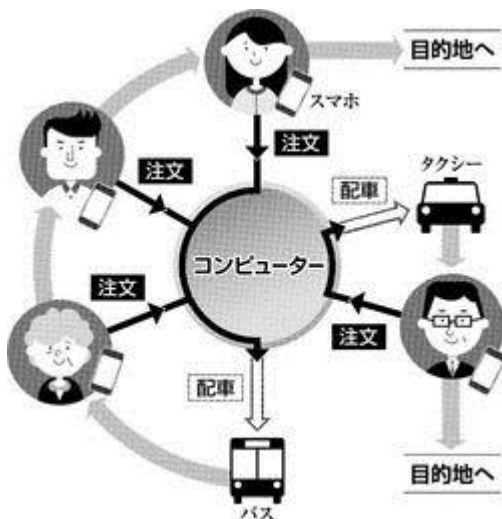
知的障害者たちが大きな和紙に描いた作品を紹介する「等身大画展」が、横浜駅東口の横浜新都市ビル（そごう横浜店）9階で開かれている。9日まで。知的障害者の通所施設であるワークステーション・菜の花（大和市深見）、新宿区立新宿福祉作業所（東京都新宿区）の利用者が過去2年間に描いた約30作品を展示。自己表現を

楽しむレクリエーションの一環として両施設が取り組んでいるもので、キャンバスは縦180センチ、横90センチの障子1枚分。柄の長いはけと墨汁を使い、人物モデルの特徴を捉えたり、頭の中に残るイメージを描いたり、力強い筆致の作品が並ぶ。

菜の花の所長（55）は「それぞれの作品の独創性を感じてほしい」。作品をモチーフにしたバッグやメモ用紙などの製品も販売。切り絵を制作している私立高校2年生（17）＝横浜市磯子区＝の作品も展示している。午前10時半から午後6時。9日は午後3時まで。

## 要望に応じ人工知能が効率的配車 未来大・松原教授がベンチャー設立

北海道新聞 2016年8月9日



【函館】人工知能研究で知られる公立はこだて未来大（函館）の松原仁教授が、乗客の要望に応じて運行する「デマンド型」の新たな交通システムの実用化に向けてベンチャー企業を設立した。利用者の希望に即してコンピューターが最適な車両とルートを選び、バスやタクシーを配車する。高齢化や赤字交通機関の廃止などにより交通弱者が増える今後の社会で必要性が高まるとみて、1年後の運用開始を目指す。

システムでは利用者がスマートフォンで乗車・下車の希望地と希望時間を知らせると、コンピューターが最も効率的に配車する。松原教授が7月下旬、IT企業「アットウェア」（横浜）と共同でベンチャー企業「未来シェア」（函館）を設立、社長に就任した。未来大発のベンチャー企業

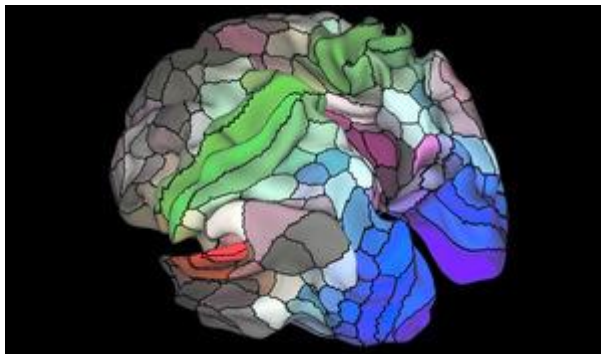
は初めてで、同大前学長の中島秀之東京大特任教授も研究開発に関わっている。

従来のデマンド型交通は過疎地の高齢者など向けに、事前予約制で少ない台数の乗り合いバス・タクシーを運行するケースが多い。

これに対し、新たに開発するシステムは予約が必要なく、走行中や待機中の車両が柔軟にルートを変え、場合によっては乗り合いもしながら運行する。都市部で複数の運輸事業者が連携して数千台の車両を使うことを想定し、人工知能などの研究成果を活用して、す

べて自動制御で最適な配車をするという。

### 「脳の地図」を作製、180領域に分類 米グループ 瀬川茂子



朝日新聞 2016年8月9日  
構造や働きによって180の領域に分けられた  
脳の地図=米ワシントン大提供

構造や働きによって脳を180の領域に分けた「地図」を作製したと、米ワシントン大のグループが英科学誌ネイチャーに発表した。米国の脳研究の国家プロジェクトの一環で、これまでの地図より解像度が高い。今後、多くの研究者に利用される基盤情報となり、脳の働きや病気の研究に役立ちそうだ。

健康な男女210人の脳について、磁気共鳴画像（MRI）を使い、構造や神経のつながり方、刺激を与えた時や休んでいる時の血流の変化など複数の解析法で詳細に調べた。得られた情報を統合して、大脳の片側を180の領域に分けた。これまでわかっていた聴覚野とは別に、話を聞く時に活動する領域を見つけるなど、97の領域を新たに特定した。

これまでの脳の地図は一つの方法や少人数の解析で作製されていたが、今回は複数の方法で大規模に解析した。さらに改良していくことで、領域ごとの働きと病気との関係の解明や脳外科手術への応用が期待できるという。ほかの動物と比較して脳の進化を理解する手がかりにもなりそうだ。

### 音楽通じ「心の壁」なくそう 篠山で9月に催し 神戸新聞 2016年8月9日

障害者も健全者もみんなが同じステージに立ち、歌や演奏を披露する「兵庫・篠山とっておきの音楽祭」が9月22日、兵庫県の篠山市役所周辺の市内8会場で開かれる。全国各地から約70団体350人が出演し、音楽を通じた「心のバリアフリー」を体現。主催する実行委員会は「たくさん笑顔を見に来て」と呼び掛けている。

音楽祭は2001年、「みんなちがってみんないい」を合言葉に仙台市で始まった。じわじわと広がり続け、今年も全国の18自治体で開かれる。

障害者の芸術活動をサポートするボランティア団体「いのちのうた」（篠山市）のメンバーが東日本大震災の被災地を訪れた際に存在を知り、仲間呼び掛けて昨年からは始まった。

会場はほとんどが屋外で、目が不自由なピアニスト綱川泰典さんや松尾牧子さん、耳が不自由な和太鼓奏者関根基成さんも出演。また、篠山からは知的障害者のグループが手話うたやダンス、よさこい踊りを披露するほか、兄弟デュオ「ちめいど」も活躍する。

実行委員長のシンガー・ソングライター小西達也さん（54）＝姫路市＝は「インターネットなど匿名で人を傷つけ合う世の中だが、音楽祭はみんなオープンで、一つの思いでつながっている。ぜひ私たちの姿を見に来て」と話している。

入場無料。8会場の演奏は午前11時～午後3時半。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

